

平成23年9月26日（月） 14時00分～15時50分 江別市民会館23号室

外部評価作業

- ①03-01 地域福祉の充実
- ②02-01 都市型農業の推進

・出席委員

井上分科会長、洞澤委員、桑名委員、高田委員

・説明員

- ① 原田課長（福祉課）、田中係長（福祉課地域福祉係）、近藤係長（福祉課障がい福祉係）、
- ② 廣木課長（農業振興課）、川口主査（農業振興課農畜産G）、新山主査（農業振興課農政G）

・事務局（政策調整課）

鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、川島課長、稲田主査、佐藤主任、長谷川主事、馬場主事

会議録

・外部評価作業

- ① 政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

施策01 地域福祉の充実

- ・14:00～14:07 原田施策マネージャー説明
- ・14:07～14:45 質疑応答・指摘・評価

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策03-01 地域福祉の充実

【高田委員】

平成12年度に介護保険制度が導入されており、過去もう10年も過ぎているが環境の変化等について一切触れていない。要するに、今まで措置する・このように決めてしまうというやり方から、契約・自己負担しながらやっていくという、内容の大きな転換があると思うが、この点についての記述がない。

【原田施策マネージャー】

たしかに制度の変更があり、その辺についての記載が無く、また障がいについても制度が変わってきていることがあるので、その点に関しては記載するよう検討したい。

【高田委員】

これと関連するのだが、いわゆる法定後見とこれに伴う介護保険等の一緒の事業として制度が決められたのはご存じかと思う。痴呆症・認知症・身体障がい・精神障がいの方々の救済方法としてこの制度があるが、その内容についても検討が必要かと思う。

それともう一つ、認知症の患者の調査というのを昨年北海道で行ったという報道があるのだが、その結果は市の方に来ているか？それでおそらく江別市の12万人というこ

とであれば1200人程度の数が痴呆症患者ということで出るのではないかと考えているが、いかがか？

【田中地域福祉係長】

法定後見人については、介護保険制度の中でそのように定めてきているので、それについては地域福祉を総括するこの「地域福祉の充実」の中に記載を検討していきたい。それから認知症については、地域包括支援センターの取り組みも事業に大きく影響しているのでその記載も今後検討したい。

認知症の患者数について、具体的な数字は今手元にはない。

【井上分科会長】

高田委員がぜひ押さえておいて欲しいという数値は医療や保健の部分で押さえていると思うので、ここの施策の環境変化に書き込めるかどうかに関しては、検討してからにしてもらいたい。

【高田委員】

対象が「障がいのある方」とあるが、「北海道障がい者条例」が全国に先駆けて制定されているので、それについても大きな変化であるので一言触れていただくことが必要かと思う。

【原田施策マネージャー】

先ほどの認知症の関係だが、一義的には「高齢者福祉の充実」という施策があるので、そちらに記載されるべきか考える。

【井上分科会長】

であれば、指摘の部分が盛り込めるかどうかの方は検討してもらいたい。

【高田委員】

障がい者の関係はいかがか？

【原田施策マネージャー】

障がい者を取り巻く環境の記載について検討を申し上げたが、「地域福祉の充実」と別に「障がい福祉の充実」という施策があるので、そちら方で環境の変化ということで記載していこうか考える。

【洞澤委員】

施策の環境変化と課題で、書いてある内容が助け合いとかみんなでつくるという内容とともに、環境変化では「基盤づくり」・課題では「社会基盤の整備」とある。この基盤の話が後の方には出てこない。後の方はボランティア活動にどれだけ参加してもらったかという話で、基盤がどこまでを指しているのかが分かりにくい。これはあまり具体的なことが出てこない話なのか、それとも一定の具体的なものを想定しているけれども抽象的に表現しているのか。もし何か具体的に書けるのであればもう少し具体化した方がいいかと思う。環境変化の「地域活動の基盤」、課題の「社会基盤の整備」の両方とも何を指しているのか読み取れなかったので、教えていただきたい。色々なものがあるのならこのような表現でも良いのかもしれないが。

【田中地域福祉係長】

ここでは福祉的な制度や事業、ボランティアなどの活動がしやすい環境を整える制度

や事業を指しているのだが、ご指摘の通り「社会基盤」というと一般的には道路などのインフラ整備の印象があるので、書き方を検討させていただきたい。

【洞澤委員】

今の説明だと分かりやすい。ボランティアをなるべくみなさんにやってもらうとともに、やりやすい環境づくりをする、ということであれば二つのものがうまく関連して分かりやすくなると思う。

【井上分科会長】

捉え方というよりも「基盤」という言葉がどういうことを想定するのかということを考えていただきたい。仕組みづくりなのか、制度づくりなのかといった考え方を統一していただければ大丈夫かと思う。

【桑名委員】

先ほどの施策マネージャーからの説明は詳しくて分かりやすかったが、報告書の方は説明よりも字数が少なく、短くまとめられてもったいない。たとえば施策の目的のところで、「地域福祉活動を活発に行い」とあるが、地域福祉活動についてもっとアピールするためにはどんな活動をしているのか記載した方が読む側にとっては分かりやすいかと思う。達成状況の説明のときにボランティアで除雪したという大雪に関する話があったが、そういうことを達成状況のところに記載すれば市民に地域福祉活動がどのように行われているか、より分かりやすくなるので、ぜひ達成状況の中に組み入れて文章を整理していただきたい。

【原田施策マネージャー】

もう少し分かりやすく具体的に記載できるよう検討する。

【井上分科会長】

施策の目的の最後に「安心して生活できるようにします」とあるが、断定は無理である。先ほどの説明の中であったように「安心して生活できる環境づくり」という表現の方が適切かと思う。

【井上分科会長】

施策の課題で「高齢化等により自治会活動等も難しくなりつつあり」とあるが、自治会活動の参加率というものがボランティアにつながっているのであれば、そのような福祉活動に関わる自治会の数値は取得できるか。

【田中地域福祉係長】

社会福祉協議会で行っている愛のふれあい交流事業というのがあり、その中で参加自治会の数などは把握している。

【井上分科会長】

自治会の中には婦人部や福祉部など色々なグループがあると思う。そこでの参加活動も地域の連帯を表すものとして指標になりうると思うので、可能であれば指標は一つだけでなく、より具体的に読みとれる指標を検討していただきたい。

【高田委員】

愛のふれあい交流事業の利用状況を教えていただきたい。

【田中地域福祉係長】

平成22年度の実施自治会数は江別市内で82自治会、対象世帯数は1556、延べボランティア人数が2520人である。

【高田委員】

ボランティアは何をするのか。

【原田施策マネージャー】

一人暮らしの高齢者等の安否確認などである。

【高田委員】

それはボランティアではなく自治会がやっていると思うが。

【原田施策マネージャー】

助成額として社会福祉協議会から平成22年度は25万円の助成を行っている。

【高田委員】

1件当たりだとかなり少ないと思う。あまり意味のない事業だと思い、効果が上がっているのかということを知りたかった。

【井上分科会長】

色々質問し細かく聞いていきたいところがあると思うが、今回はこの報告書に書かれている内容についての質問ということでお願いしたい。

▼基本事業01 「福祉意識の向上」

【桑名委員】

成果指標で「福祉ボランティアに参加している、または参加したいと考えている市民割合」と一つにまとめるのは適切ではないと思う。実際に参加して定期的に活動している人と、実は全然参加したことが無いがいつかしてみたいと思っている人が一緒になっている数字というのは、どのように活かせるのか疑問に思うので、できれば別々の方が分かりやすいかと思う。そして、「参加したい」と考えている人がだんだん減って「参加している人」が増える割合が見えてくると、市民にとっても刺激になると思うが、いかがか。

【田中地域福祉係長】

この数値は市民アンケートを基にしており、質問項目が分かれているので、指標を分けることは可能である。今後検討する。

▼基本事業02 「地域福祉活動の推進」

【洞澤委員】

成果指標の二つ目の「民生・児童委員の対応相談等の件数」について、後期目標を件数の増加としているが、これは件数が多い方が良いと判断すべきものなのか、意図するところを教えてください。

【原田施策マネージャー】

たしかに多い少ないでは判断できない部分があるかと思う。例えば今回のように地域包括支援センターができて、そちらに高齢者の相談件数が移ったり、生活保護のケースワーカーの方に相談が充実して件数が移ったりすると、民生・児童委員対応の相談件数は減ってくるということがある。それを考えるとただ件数が減ったからといってそれが悪いとも言い切れない。委員のおっしゃるとおり、指標のあり方について検討が必要だと思う。

【井上分科会長】

逆に、地域包括支援センターができたことの良さというのは、身近に行政が対応してくれる場所があるということだと思う。民生・児童委員というのは玄関のところに表示してあったり、自治会報で周知されているが、個人に個人の情報を知られすぎるのが嫌だから相談はしたくないという人もいるし、逆にとても頼りになる人だからということとで一人の方が一年に何回も相談することもあり、それも相談件数である。そうすると、相談件数を指標にする意味がどういうことなのか、ということを引きちんとしておかないと数字が独り歩きしてしまう。だから洞澤委員がおっしゃったように、もしこれを指標にするならば、相談できる場所がある人や、相談できる人が近くにいるということであれば、地域で支え合うということが言えると思うので、指標のとり方を変えなければならぬのではないかと思う。

【原田施策マネージャー】

当初設定した指標であるので、これは引き続き数値をとっていく必要はあるが、ご指摘いただいた点については付け加えるような形で検討していきたい。

▼基本事業03 「人材の養成・確保」

【高田委員】

ボランティアという言葉があちこちに出てくるが、あまりに安易に使い過ぎていないか。タダでやってくれる、無償だということをイメージするが、それではお願いする方もやる方も気兼ねがあるのでないか。あまりボランティアという言葉は使わずに、「社会貢献」という言葉で表現することで考え方を広めるというのはいかがか。

【田中地域福祉係長】

ボランティアというところがそういう団体に所属しているのかどうかなどで見分けられやすいこともあるが、一方で少し堅苦しいところがあるのはおっしゃる通りである。社会貢献とか奉仕とか、日常的に個人がその時の気持ちでできるというのが大事だと思うので検討したい。

【井上分科会長】

基本事業として位置付ける意味を確認したい。この基本事業で人材を養成・確保した後に、その人材が活動してくれなければ地域福祉の充実につながらない。活動した結果・成果が数値的指標で上がってきているかもしれないが、それを今後どうつなげるかというところで初めて人材の養成と確保があって地域福祉が活かされる、まさにPDCA

のサイクルを考えなければならないが、残念ながらこの「地域福祉の充実」の施策の中にはその流れが見えない。基本的に事業をすることで地域福祉の充実のためにどう活かされてきたのかが見えないので、極論を言うと基本事業01と02は一緒にしてもかまわないのではないかと。指標は3本くらい立てれば十分成果が見えるのではないかと。わざわざ事業を独立させる必要があるのか。逆に言えば民生委員とか、福祉に関わる仕事を行政に代わってお手伝いしてくださる方々に、どういう目的をもってどのように展開してもらいたいのかという事業をもう1本つくる、という考え方の方が良いのではないかとこの施策全体を見て感じた。社会福祉協議会が中心になってやってくれているから、ということになっているのかもしれないが、行政としては一本筋を通したものの中で社会福祉協議会と一緒にあって連携しながらやっていく、そのための基本事業としてはどうなのかということになると、ボランティア・人材養成の事業を主要事業としてやっているのだから、養成した人たちが地域でどれだけの活動をしてきていて、だから地域福祉が充実してきているというように捉えられるような指標がつかれないかご検討をお願いしたい。

【高田委員】

地域助け合い体制づくり事業というのがたしか新政権になってから論じられていると思う。自治体・住民組織・NPO・福祉サービス・事業者負担による体制づくり、施設、人材育成に補助金が出ていると聞いているが、まさしくこれではないか。この事業は多方面に使えるようである。

【原田施策マネージャー】

分科会長からのご指摘のあった基本事業の位置付けについては、次期総計に向けて検討していきたい。

【桑名委員】

主要事業一覧のボランティア人材養成事業の欄に内訳として点訳・手話・朗読といった内容の記載があるので、達成状況の中に「ボランティア活動を支援」という言葉に括弧書きで補足した方が、より詳しくどういう活動を支援しているのか分かりやすい。そうすれば、先ほど高田委員から指摘があったようにボランティアというカタカナの言葉が少し柔らかく表現できると思うが、いかがか。

【原田施策マネージャー】

この基本事業については、社会福祉協議会の部分だけを記載している状況である。手話・要約筆記というのは市が委託で独自にやっている養成講座で、その記載が無い。

【井上分科会長】

あえてPRする必要は無いが、実際やっていて成果が上がっていて、市民が関わっていることであれば記載をした方が励みになるし、明確に読み取れるようになると思うので、検討願う。

【高田委員】

民生・児童委員の対応相談件数とあるが、民生委員について、欠員や高齢化、担い手不足など色々と騒がれているが、十分相談に対応できる人数となっているか。

【田中地域福祉係長】

総体的な定員については十分だと考えているが、成り手の問題等はある、現在3名ほど欠員状態で、まだ推薦を受けていない自治会もある。年齢はかなり高齢化しており、若い人の成り手が少ない。

【高田委員】

年齢制限を撤廃するという話も出ているが、たしか65歳だったと思うが。

【原田施策マネージャー】

今回緩和されており、新規は年齢制限が無くなり、再任は年齢がはっきりしないが制限がまだ撤廃されていない。

【高田委員】

当市はあまり不足はしていないということか。

【原田施策マネージャー】

今のところ全市の定数がある中の3名が欠員で、自治会の方に説明にも行っているがなかなか手がいない。

【高田委員】

この相談件数から見ると民生委員が窓口だと分かる。民生委員の充実は大事なことだと思うが。

【井上分科会長】

今後をお願いすることは多々あるが、今年度の報告書に関しては文言を少し付け加えるということで検討していただきたい。

～まとめ・評価～

【井上分科会長】

施策については、文言等について検討いただく必要があるが「概ね適切」ということでよろしいか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業01と02については指標について検討いただく必要があるが「概ね適切」とし、基本事業03については文言や基本事業の位置付け等検討事項があるため「要検討」ということでよろしいか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

以上で施策03-01「地域福祉の充実」についての評価作業を終了する。

② 政策02 明日につながる産業の振興

施策01 都市型農業の推進

- ・ 14時45分～14時55分 廣木施策マネージャー説明
- ・ 14時55分～15時50分 質疑応答・指摘・評価

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策01 都市型農業の推進

【高田委員】

「都市型農業」という言葉はどういった定義で用いているのか。

【廣木施策マネージャー】

定義ということではないが、江別市は大消費地の札幌に隣接しているので、単に生産だけでなく地の利を活かした農業を展開していきたいとの考えで、用いている。

【高田委員】

「都市型農業」というと、レタス・キャベツ・花卉類等が栽培されていて、大消費地である札幌に出荷できる体制が整っていることだと思うが、江別市の農業産出額は稲作・畑作・酪農で7割を占めており、都市型農業と言う表現が適当と言えるのか。

【廣木施策マネージャー】

ブロッコリーについては全道一、レタスも全道で3位くらいの産出額があり、都市型農業を目指しているところである。

【洞澤委員】

何を持って都市型農業というのか、単に品目だけではないように思う。都市と農村の交流イベントや直売所の活用など、そういった取り組みも含めて都市型農業という表現をするべきではないか。

【高田委員】

都市で行う農業なので都市型農業というわけでもないだろうし、大消費地に接している地の利を活かして、こういった特徴のある品目に注力して取り組んでいますというような表現を検討していただきたい。

【井上分科会長】

先ほどの説明の中で、活力の低下や江別の立地の特性について言及があり、非常に分かりやすい説明だったので、その説明を少し端的に文章で表現してこちらの報告書に記載していただきたい。

それから、例えば課題の欄に「農業経営の安定」と書かれているが、今は不安定であるということだと思うので、その不安定要素が環境の変化の欄から読み取れるように記載して、環境の変化と課題の欄が連動するようにしていただきたい。また、同様に課題として挙げるものは、それを解決するために6つの基本事業に取り組んでいるという、つながりが分かるようにもう少し丁寧な記載をお願いしたい。

【廣木施策マネージャー】

記載について検討する。

【洞澤委員】

先ほどの環境の変化に関する説明の中で、江別市特有のこととして「土地利用の多様化」があるということだったが、もう少し詳しく説明していただきたい。

【廣木施策マネージャー】

例えばグリーンツーリズムなどのように、単に農地として利用するだけでなく、農業者が商業的なことに利用するということを含めた、「土地利用の多様化」という表現である。

【洞澤委員】

では「多様化」は推進していくということによろしいのか。

【廣木施策マネージャー】

そうである。

【洞澤委員】

そういう意味なら「土地利用の多様化」という表現は正確ではないように思う。

【高田委員】

減反政策による休耕地や、初めから耕作する予定のない土地の利用が多様化しているということなのか。

【廣木施策マネージャー】

全く耕作する予定のない土地の利用という意味ではない。

【高田委員】

担い手不足により耕作されない土地が発生しているということはあるか。

【廣木施策マネージャー】

そういう事象は発生している。

【洞澤委員】

施策の課題の記載について、バラバラに項目が挙げられているようなので、例えば基本事業と対応するように順番に記載することとして、ただ基本事業が6つあるので少し多いということなら、課題をグルーピングしてまとめるというやり方もあると思う。

【高田委員】

農業土木に関わるようなハード面での課題と、経営の安定などソフト面に関する課題というように整理することも良いと思う。

【洞澤委員】

課題に挙がっている「食育の推進」はその後の基本事業のどの部分に関わっているのか、よく分からない。地産地消に関わってくるのか。

【井上分科会長】

地産地消に関わるのなら、その部分に含まれるというように読み取れる書き方が必要である。食育だけが単独の課題として存在していると誤解を招く書き方は好ましくない。

合わせて、地産地消を表すものとして学校給食で使用している食材のうち、江別産食材の割合というようなデータを載せることはできないか。

【新山主査】

給食センターでそうしたデータを把握していると思うので、確認して指標にできるか

検討したい。

【洞澤委員】

環境の変化や課題の欄から読み取れる多様性や将来志向と比べて、成果指標は伝統的な数値しか用いていない。

【井上分科会長】

例えば農産物のブランド化を図るという意識を持って、担い手となる若い人を育てているのなら、それを支える子ども達がどれだけ江別産の食材を食べているのかということが数字で見えてくると、それが事業と連動していく。指標について検討してほしい。あるいは、先ほどブロッコリーの生産量が全道一という説明があった。施策の取り組みとして成果を挙げた代表例として、ブロッコリーの産出額を記載しても良い。報告書ではどれだけ成果をあげたか、どれだけ将来性のあることをしたのかを数字で見せてほしい。

【洞澤委員】

施策の意図では生産額の向上だけ記載されているが、江別産農産物の地元消費を増やすというようなことも加えられないか、次期総合計画策定に向け検討してほしい。

▼基本事業01 「担い手の育成・確保」

【洞澤委員】

2つ目の成果指標「新規就農者数」は累計の数字だけが記載されている。他にも累計で記載する指標があるかと思うが、単年度の数字に括弧書きで累計の数字を併記するような形の方が、指標の動きが見えやすい。

【廣木施策マネージャー】

表記方法について検討する。

【高田委員】

農業生産法人について、農業が主体の法人と、農業以外が主体の法人との割合はどうなっているか。

【廣木施策マネージャー】

手元に資料がないので割合については今すぐにはお答えできない。

【高田委員】

法人が生産している品目はどんなものが多いか。

【新山主査】

手元に資料がないので確かではないが、レタスや大豆が多いように思う。

【廣木施策マネージャー】

個人農家が経営形態を法人に変えたというケースもあり、必ずしも新たに法人となり江別の農業に参入してきたということではない。

【高田委員】

農業の大規模化を目指したり、特定の品目のブランド化を目指したりする中で、今後法人の数は増加する見込みか。

【廣木施策マネージャー】

個人農家が農業経営の安定化を図る中で法人化という選択をすることもあるだろうし、特定の品目を生産する目的で法人化するという動きもあるだろうが、はっきりとどういう性格の法人が増えてくるのかは分からない。ただ、大規模化という流れもあるし、法人の数は増えてくると考えられる。

【井上分科会長】

基本事業の目的に記載されている「継続できる農業経営」という表現は適当でないように思う。「安定した農業経営」というような表現の方がいいのではないか。安定した収入がなければ継続できないのだから。

▼基本事業02 「生産性の高い農業経営の確立」

【井上分科会長】

目的の中にある「農地の流動化」とは具体的にはどういうことを想定しているのか。

【洞澤委員】

一般的には大規模化をするために農地を貸しやすくしたり、自治体はその仲介をしたりという農地を集約するための流動化ということか。

【廣木施策マネージャー】

そういう意味も含んでの表現である。

【洞澤委員】

ということは、農地でないところが農地になったり、あるいはその逆であったりという意味合いも含んでいるというように読まれてしまうので、「農地の流動化」よりも「農地の集約」という表現の方が適当だと思う。

【井上分科会長】

確かに経営規模の拡大とつなげるのであれば、「農地の集約化による経営規模の拡大」という表現の方が分かりやすい。

【廣木施策マネージャー】

次期総合計画の策定に向けて表現の見直しを検討する。

▼基本事業03 「潤いと活力に満ちた農村の実現」

【桑名委員】

目的の中に「衛生面等で生活環境の向上を図り」とあるが、衛生面以外に何かあるのか。

【洞澤委員】

道路整備などの利便性向上という面もあるのか。

【高田委員】

農村地区の水洗化を進めていくということか。

【廣木施策マネージャー】

積極的に水洗化を進めていこうという事業は行っていない。「農地・水・環境保全向上対策事業」の中で草刈りをしたり、地域の環境保全に努めている。

【桑名委員】

意図の欄にも括弧書きで「(衛生等)」とあるので、衛生面を強調したいという思いを感じるのだから。

【新山主査】

「衛生面等で」と補記することが、反対に分かりづらい表現になってしまったのかもしれない。

【井上分科会長】

あえて「衛生面で」と書くのであれば、例えば農村地区の水洗化がどうなっているのかという指標を記載する必要が生じるので、書く必要はないように思う。衛生面も含めた生活環境の向上ということで十分である。

【廣木施策マネージャー】

記載について検討する。

▼基本事業04 「農畜産物の付加価値化」

【井上分科会長】

対象と意図で、江別産農畜産物の市場価値を高め、ブランド化するという事になっているが、ブランド化の前にまず認知度を高めるということが先のように思う。ブロッコリーの生産額が全道一だということも先ほどの説明で初めて知った。「ブランド化」というのが認知度のアップという意味を含むと言えなくもないが。

また、達成状況の欄に小麦の「ハルユタカ」が書かれているが、これを成果指標「市場で付加価値の高い農産物」に書くことはできないか。

【川口主査】

市場で付加価値の高い農産物はハルユタカだけを指すものではないので、補記することは適当ではない。

【高田委員】

お米の「ほしのゆめ」などはどうか。ブランド化していくのか。

【川口主査】

この成果指標に設定した「市場で付加価値の高い農産物」は、小麦のハルユタカ、アスパラ、ブロッコリー、レタス、大豆、の5つである。

【洞澤委員】

その5つを明示した方が見た人は分かりやすいというメリットはある。ただ一方で明示することによって、「どうしてあの品目が入っていないの」という疑問を生じさせてしまうデメリットも考えられる。それを踏まえて、明示するべきかどうか検討して欲しい。

【高田委員】

江別のアスパラというのは今初めて聞いた。もっとPRした方が良い。アスパラはど

のくらい生産額があるのか。

【川口主査】

現在JAが広域化されJA道央になっているので、江別だけの生産額という数字は表れてこない。

【井上分科会長】

この成果指標は作付面積としているが、江別市全体の作付面積のうち「市場で付加価値の高い農産物の作付面積」が何%を占めているかという指標の方が、一般的には分かりやすいように思う。

【廣木施策マネージャー】

次期総合計画の策定に向け検討する。

▼基本事業05 「環境と調和した農業の推進」

【井上分科会長】

成果指標の「エコファーマー認定戸数」は後期目標の50戸に対し22年度までで、既に152戸となっている。100%となると何戸ぐらいになるのか。

【川口主査】

基本事業01の成果指標にあるように、100%だと483戸である。エコファーマーの認定は作物毎になるので、一戸で複数取得することもできるので注意が必要だが、この152戸というのは重複しないようにカウントした数値である。

【洞澤委員】

想定の目標値より大幅に増えていることについて、そこを分析してポジティブで明るい未来につながるような話があるのであれば、是非達成状況に記載してほしい。

▼基本事業06 「地産地消と消費者の交流」

【高田委員】

この基本事業でいうイベントとはどういったものがあるのか。

【廣木施策マネージャー】

直売所のスタンプラリーや加工品フェアがある。

【井上分科会長】

加工品フェアとなると対象が市民・農業者だけに限定されないのではないか。加工事業者も含まれてくるのではないか。

【川口主査】

農家の方が自分達で大豆を加工して味噌を作ったりしているものが対象なので、農家が基本である。

～まとめ・評価～

【井上分科会長】

施策と6本の基本事業について、それぞれ評価する。

まず、施策については全体的に記載内容に指摘事項が多かったので、「要検討」として良いか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業01は文言の整理と指標の表記方法、達成状況の記載について一部指摘があったので、「概ね適切」として良いか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業02と03は、それぞれ1か所文言の整理にかかる指摘があったので、「概ね適切」として良いか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業04は文言の整理と指標について一部指摘があったので、「概ね適切」として良いか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業05と06は特に指摘がなかったので、「適切」として良いか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

以上で施策02-01「都市型農業の推進」の評価作業を終了する。

15：50終了